

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームあかり(各務原苑)
(ユニット名)	2F
所在地 (県・市町村名)	各務原市各務山の前町3丁目23-1
記入者名 (管理者)	吉田 明海
記入日	平成 19年 6月 25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、その人がその人らしく暮らして頂ける様、尊厳を持った対応を心掛け、ホームが自分の居場所と思える様支援させて頂いています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、事務所、休憩室、廊下の目に付く所に掲示し、個々の意識の中に浸透し実践に移せる様取り組んでいます。また、スタッフ会議など機会あるごとに話し合い理念にそった介護を実践しています。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域運営推進会議に、自治会長、民生委員、家族代表など交えて、ホームの様子を理解して頂き、地域の方々に伝えて頂いています。又、毎日の散歩では、近所の方と会話したり、地域の行事に参加させて頂いたり、ホームの行事に招くなど、交流する事で理解を深めて頂いている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の時など通りがかりに会話したり、家で取れた野菜を持って来て下さったり、ホームの犬に会う為に立ち寄って下さるなど、日常的な交流をしています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	コミュニティーで集まりなどがあると(老人会)民生委員さんが、声を掛けて下さり、参加させて頂いています。市の福祉フェスティバルに参加したり、地域の児童合唱団の発表など、観に行っています。	○ 自治会長さんや民生委員さんの協力を得て、地域の活動にさらに参加し、地域の人々全員にあかりを理解して頂ける様努力して行きたいです。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームの行事(クリスマス会)に地域の高齢者野方を招待し、一緒に食事やゲームを楽しんで頂きました。近くの障害者施設の皆さんを招き、一緒にお茶を飲んだりゲームを楽しみました。	○	もっと、地域に貢献できる事は何かを考え、積極的に地域に働きかけ、取り組んで行きたいです。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	一年に一回評価の機会がある事で、当ホームを客観的に見直し、前向きに取り組む事が出来ると考えています。前回指摘を受けたところについては、改善を図り具体的に取り組んでいます。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域に密着したホームを目指す中で、地域の中心的活動をされている方々に、ホーム側の思いや要望を伝える事ができ、理解して頂く事で、サービスの内容が充実した物になってきていると考えます。(例 行事などで交流の場が出来るなど)		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の高齢福祉課の方に業務上の相談に乗って頂いたり、社会福祉協議会の方にもボランティアさんの件で相談させて頂くなど、又、民生委員さんが入居者様の様子を気にされ訪問して下さるなど、常に連携を取りケアの質の向上に努めています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修の中で権利擁護に関して学んでいます。入居者様の身内の方々にこの件に関してお話させて頂いた事があります。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学び、スタッフ会議で報告し、勉強会を開いて虐待の防止に努めています。	○	新しい職員が入って来た時にも、虐待防止の意味を理解して貰える様、入社時教育の一つとして取り入れて行きたいと思っています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	まず、家族と本人様にホームを見学して頂き、その後、十分な説明をさせていただきます。会話の中で質問し安い雰囲気を作り、十分納得頂いた上で、契約を結んで頂きます。契約に至るまでに、電話のやり取りも何度か行い、ご本人の様子などを伺ったりしています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の苦情は、直接職員に伝わって来る場合が、殆んどですが、たまに、マッサージの先生や、外からの看護婦さん、家からの場合もあります。いかなる場合にも、即座に対応しています。苦情は、ホームが良くなる貴重な意見ととらえています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月次報告を出しており、身体状態を中心に日々の生活の様子などを細かに報告させて頂いています。急に体調が悪くなった時、ケガで病院に掛かった時には、随時報告しています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、ご意見箱を設置しており、あった場合は、直ちに対応しています。日頃、面会時の会話の中で苦情をくみ取るよう努力しています。苦情処理担当も置いており、その都度対処できる体制を作っています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議、スタッフ会議の中で意見や提案を聞く事が出来ています。どんな事でも運営者や管理者の押し付けではなく、話し合いの上決定して行く方法を取っています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	現場の職員の要望を聞き、必要な時間帯には、スタッフを多く配置するなど勤務時間の調整を行っています。又、フリーの勤務者を置き、手薄な所へのフォローを行っています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	認知症の方は、馴染みの職員によって支援を受けられる事が一番であることを前提に極力異動や離職者が出ない様、職場環境を整えています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に参加し、個人の介護の資質を向上させることに 関して積極的に進めています。研修費の援助、日にちの確 保なども行っています。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と 交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強 会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの 質を向上させていく取り組みをしている	地域包括主催のネットワークづくりの会合や同じ地域のP.T によるリハビリ研修会への参加、グループ協議会への参加、 他のグループホームを研修を兼ねて見学させて頂くなど、積 極的に情報交換しサービス向上に取り組んでいます。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減す るための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員旅行、忘年会、食事会の実地、休憩室、休憩時間の確 保等、誕生日には、経営者より花のプレゼントがあります。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持っ て働けるように努めている	職員個々の事情に合わせた勤務表を作成し、極力働き安い 環境を確保し力を十分発揮出きる様配慮しています。スタッ フの向上心を引き出し応援しています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っている こと、不安なこと、求めていること等を本人自 身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力を している	事前面談を行い、聞き取りを行っています。本人の不安に 思っている事を良く聴き、一番良い方法をみんなで考えてい ます。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困ってい ること、不安なこと、求めていること等をよく聴く 機会をつくり、受けとめる努力をしている	自宅へ伺い、事前面談にて聞き取りを行っています。ホーム に見学に来て頂き、そこでの聞き取りも行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限り支援しています。他施設のケアマネや相談員に情報を貰ったり、相談するなどしています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前面談の時に、話し合い、本人に家族から話して頂く事から始め、見学して中の様子を見て頂いたりしながら、徐々に馴染める様にすすめています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	散歩に出かけた時やレクリエーションの時あるいは、洗濯物たたみや、料理の盛り付けなど、日常の作業を一緒に行うなかで、本人の喜怒哀楽を感じたり、教えられる事もあり……その時々で、人と人としての関係を築いて来ています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の立場を理解し、喜びも、悲しみも共有し本人の為にすることを一緒に考え支援して行ける様努めています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の思い、本人の思いの間を上手く取り持ち、両者の希望に添えるよう支援しています。家族とは、コミュニケーションを図り信頼される事が一番と考えています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に昔の友人の名前を伺っておき、その方から連絡が入った時には取次ぎをしたり、近所の友人が面会に来所されるなど、交流が途切れないように間に入り支援しています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	特に、孤立した人もなく、良い関係が出来ています。日常の作業(洗濯物たたみなど)の輪に加わる様、声を掛けるなどして間を取り持つ様にしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された方に、こちらから出かけて行き、直接面会したり、転居先の施設の職員に様子を伺うなどしています。入院された方には、時々お見舞いに伺っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から、あるいは家族とお話の中から、本人の思いや意向を把握し、それに備える様努めています。困難な場合は、それに代わる事は何か、ケア会議などで検討しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談から始まり、日頃の家族が、面会に来られた時など、会話の中から少しでも多くの情報を収集しようと努めています。個人情報経過表に、家族との会話の内容を記入し、新しい情報をアセスメント表に加えています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員同士の申し送りから、個人の現状を把握し、スタッフ会議でも情報を交換する中で、総合的に把握し、スタッフ全員がそちらを共有する様に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を立てる上では、本人、家族、担当者(介護者)らが、集まり話し合いの上で決定しています。アセスメントを十分に取った上で、本人の望む事は何かを一番に考え、その中で家族の意向なども良く効き、話し合いの上で作成しています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間終了時見直しをし、評価しています。期間終了以前は、体調の変化等で継続出来ない時には、その時点で本人、家族も含めて関係者と話し合い、改めて計画を作成して行きます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、介護記録に毎日記録し、申し送りを確実にし、情報を共有しています。介護記録に介護計画の内容を付けて、その内容に付いては、特に詳しく記入しています。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望に対しては、その都度スタッフ間で、話し合い極力応えられるよう努力しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の行事や会合などには、民生委員さんに間に入って頂いたり、消防署の方には、避難訓練・救急の指導を受け、地域のボランティアの方には、日常のケアのお手伝いを行って頂くなど、多方面の強力を得ています。	○	今までも、地域資源との強力支援を受けながら、行って来た事が、多々ありますが、それを継続し、特別な事ではなく、自然な事として、支援して行けると良いと思っています。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス利用の為の情報を頂いたり、本人の意向に依る為の相談など連携を取って支援しています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターには、権利保護の事以外にも、相談にのって貰うなど、常に連携を図っています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の主治医は、決まっておりますが、月一回の定期往診を受けていますが、本人、家族の希望により、従来の掛かりつけ医を指定された場合には、その医療を続けられる様支援しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	事業所の主治医より、専門医に紹介状を書いて頂き受診しています。本人、家族と専門医、職員とで、日常の様子や行動を観ながら、薬の調整をしていくなど、一番良い状態を保てる様、連携を取りながら支援しています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームのナース、医療連携のナース、主治医の訪問看護など、医療面での相談、支援窓口は、十分あり、日常の健康管理のアドバイス等を受けています。又、体調不良、ケガなど、緊急の場合には、相談指示を受け、点滴などの医療面での支援も受けています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先の相談員や、看護師を通じ病気の経過説明を受けたり、家族への連絡があれば、その都度行うなど連携を取っています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した段階で終末期の対応の仕方を、具体的にどのようなするか、医師や家族と相談し決定しています。職員全員には具体的な対応の仕方を申し送り、共有しています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族の意向を重要視し、かかりつけ医とも十分相談の上で出来るだけ、家族の意向に添える様準備を行っています。急変時の対応についても家族と何度も話し合い、具体的に考えられる状態を想定し、職員全員が周知出来る様にしています。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居先の別の居所のケアマネや職員には、十分な情報を提供し、環境の変化によるダメージを極力、少なくする様努めています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	アセスメントを十分に取り、その人の生活史や性格などを 知った上で、尊厳を持った言葉掛けや対応を心掛けていま す。又、個人情報の取り扱いにも、十分注意しています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常に、自己決定を重視し、こちらの押し付けや決定はありま せん。納得出来る様に、個人、個人に合わせた言葉かけを 行い、本人の意志を尊重しています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各自の希望を優先し、そのペースに合わせて、行動して頂い ている。その時の気分で食事が出来ない時には、時間をず らして食べて頂くなど。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人希望がある場合、行きつけの理容・美容院に、お連れし ています。特に希望のない方は、ホーム指定の美容院にお 連れしています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で、野菜の下ごしらえや味見、盛り付けなどに 関わって頂いています。食器洗いやお盆拭き、テーブル拭きな ども定着しています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食が細く、十分食事が取れない時、ゼリーや果物が好きな場 合補助食として食べて頂いたり、日常的にもおやつとして提 供し、楽しんで頂いています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失禁やパット汚染を少なくし、トイレでの自尿を促す為、排泄チェック表を付け、排泄パターンを把握しました。その結果、現在では、時間を見てトイレ誘導する事により、失禁は、ほとんどなくなり、パット使用量も減少しました。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	特に大浴場の好きな方には、月に一回「ゆ」にお連れし、楽しんで頂いています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人のペースに 合わせています。眠れない時には、リビングでお茶など飲んで、リラックスして頂く様、支援しています。又、悩みがあって眠れない時には、話を傾聴し、安心して頂くなどしています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し、テーブル拭き、食事の盛り付け、犬の散歩、洗濯たたみ、新聞折り、広告の箱作り等々、自分の役割として習慣になっており、張り合い、気晴らしになっていると思われます。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の時に本人にお金を渡し、好きな物を買って頂き、本人がレジにて精算されます。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出が何よりの楽しみと言う人が多く、機会を作り支援しています。食品の買い物の時にスタッフに同行して頂き、外出の機会を作っています。散歩と、庭での日光浴は、毎日の日課となっています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族とも相談の上、本人のたつての願いを叶える為、個別に外出の計画を立て、職員と1対1で外出の機会を設けています。喫茶店にお茶を飲みに行く、ランチを食べに出かける、スタッフと「ゆ」に行く、家が近いので、月1回スタッフと一緒に帰り、草むしり、家の中の整理して来る、等々外出の支援をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけたり、手紙、葉書きの投函の支援をしています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は、特に制限はなくいつでも来所して頂ける様、家族に話してあります。知人、友人馴染みの人たちの来所時にも、本人とゆっくり面会できる様、場所を確保したり、おやつと一緒に食べていただくなど工夫しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者が、「身体拘束廃止」の講習を受け、その後スタッフ会議において、全職員に説明・研修をし理解した上で拘束廃止に向けての取り組みを実践しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2Fから自由に1Fに降りられ、玄関から外に出られますが、スタッフの見守りを確実にを行う事により、外に出られても庭までにとどまり、それ以外に行かれる事はなくなりました。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間は、居室に入られていてもスタッフ同志の声かけ及び、居室確認により所在や様子を把握しています。(最長でも2時間に1回は、確認する。)		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人個人の状態を把握する事により、危険を伴うと判断した場合は、職員が付き添い防止する様努めています。保管場所にも配慮しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひとりひとりの身体状況と行動を把握し、ケア会議にてその対策を話し合い、事故防止に取り組んでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	初期対応の方法救急訓練は、消防署の職員の指導を受けています。ひとりひとりに合わせた対応もナース指導のもと、職員全員周知されています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署による避難訓練を年1回行っています。地域の避難場所として当ホームを利用して頂きたいと思っています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	面会時、ケアプランの話し合いの時など、身体的状況を報告し、その時々のおこり得るリスクについて説明させて頂いてます。医療面・介護面を総合的にとらえ、対策を話し合っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異変に気付いた場合は、ナースに報告し指示を仰ぐ、重病、重傷の場合は、主治医に相談し指示を仰ぐ。その後、スタッフ間で情報を共有する為、申し送りを確実にしています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルに処方された薬内容医師からのコメントなど全て記入する事になっており、スタッフは、必ず目を通し確認する事になっています。薬内容が、変わった場合、副作用あるいは、症状の変化の可能性のあるものには、見守りを強化するよう申し送りを確実に実行しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	多目の水分補給、体を動かす、出来るだけ食物繊維の多い食物を利用するなど自然排便を促していますが、どうしても時には、様子をみながら下剤も服用しています。排便チェック表を記入しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアをして頂いています。自分で出来ない場合は、スタッフが手伝わせて頂いてます。訪問歯科による毎月の口腔ケア、口腔内チェックを行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、毎食後記入しチェックしています。水分量は、一日3回、食後、おやつの際にお茶は必ず飲んで頂いています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の研修を受け、スタッフにもその内容を伝えていきます。食前の手洗いの実行は、必ず行っています。入居者様にはお盆拭きやテーブル拭きの際手洗いを行って頂いています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は賞味期限を守って使う。日付の古いものから使う。調理用具は熱湯消毒を行う。調理の準備をしていただく時には、必ずビニール手袋、エプロンを使用して頂いています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	天気の良い日には玄関から入りやすいようにドアを開けておきます。家族が来られても一緒にお茶を飲んで行って頂けるよう、外にテーブルとベンチを設置してあります。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	TVの位置を変え、耳の遠い人にも音が聞こえる位置にしました。 トイレに消臭剤を置きました。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人個人の気にいった場所の確保。 気の合った方同士の席の確保をし、コミュニケーションを図れる様支援しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に新しい家具を買う必要はなく、使い慣れたものや気に入った物を持って来て下さいと伝えております。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	2Fは特に外気温により、すぐに室温も上がりやすいので、温度調節には1F以上に気を配っています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下は手摺りが取り付け、エレベーターにはチャイムが鳴るようにし、安全の確保をしています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ドアに絵を貼ったり、目印になるものを付け、自室の確認ができるようにしています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに鉢植えを置くなどして楽しんでいます。北側に山があり、四季折々の風景を楽しんでいます。今春は藤の花が見事に咲きました		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「あなたの笑顔を見たいから・・・」

笑顔を見せて頂くには、生活の中に自由があってこそ、張り合いのある毎日であってこそ、わがままの言えるところであってこそと考えます。希望・要望をお聞きした以上は、出来るだけ叶えてさし上げたい。スタッフの声かけは「まず、前向きに考えてみよう！月一回でも叶えてさし上げようよ！」そんな気持ちで日々取り組んでいます。

入居者様には長い生活歴があり、希望・要望など常に持ち続けていらっしゃいます。あかりに入居されたけれど、何も出来なくなってしまう・・・というのではあまりにも淋しい。人はどのような状態になろうとも自由であり、尊厳を持って生きています。それを守ってさし上げた・・・あかりのスタッフは全員が同じ気持ちで支援させて頂いています。